

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書③

岐阜県立池田高等学校

学校番号	20
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学校の教育目標に共感できる保護者は88%を超え、教育目標に向けて、学校が努めていることが概ね理解されていると考えられる。また、単に学力の育成だけではなく、健全な身体と豊かな心をもつ人間を育成しようとしていることに対しても肯定的な回答を得ている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎・基本の定着と学力の向上を図る。 ◇主体的な学習態度の育成を図る。 ◇SDGsに取り組み、ESD（持続可能な開発のための教育）の発展を図る。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	企画委員会・教育課程委員会・各教科会・職員会議を通して全職員の意識の向上を図る。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 補充、追認等の特別指導や提出物等の期限の徹底を含む初期指導 (2) 授業評価（授業アンケート、相互授業参観）による授業改善 (3) 習熟に応じた少人数教育、個別指導 (4) アクティブ・ラーニングによる力がつく授業実践 (5) ICT機器を利用した教育実践	(1) 生徒及び保護者を対象とするアンケート (2) 生徒対象の授業改善アンケート (3) 相互授業参観（校内授業公開週間）の結果 (4) 補充、追認指導の状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> • 成績不振者に対し各考査終了後に補充授業や習熟度の高い生徒には放課後補習や個別指導を行った。1・2年生全員スタディサプリに加入させて、家庭学習を習慣づけるためにサプリの課題を多く出題した。特に英語・数学・国語においては週末課題などに利用した。初期指導を行うことで、生徒の中に時間や期限の厳守が定着した。 • • 授業改善においては、年2回の相互授業参観（校内公開授業週間）を定め、各教諭が最低1回は、他の教諭の授業を参観に行くこととした。また、生徒に授業改善アンケートを行い授業の改善に利用した。 • 生徒の実態に応じた習熟度編成（習熟クラス）や個別指導を行い、習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力がつく授業を目指した。 	① 学習指導において、きめ細かな指導ができたか。 ② 他者の実践が自分の授業力向上に寄与したか。生徒による授業評価を改善に生かしたか。 ③ 習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力がつく授業の実践ができたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D	

<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングについては、生徒の学力向上と主体的な学習態度の育成及び協働的な学習形態の工夫を図った。 ICT機器（プロジェクター・タブレット等）を活用することで学習意欲を高め、総合的な探究の時間等における調べ学習等で効果な活用方法を工夫した。 	<p>④ アクティブ・ラーニングへの取り組みが、生徒にとって力づく実践となったか。</p> <p>⑤ ICT機器を利用することによって、生徒の学習意欲が高まるような実践となったか。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
--	--	---

<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>○習熟クラスを各学年に設けているが、より力づく実践を行うために、昨年に引き続き2年理科系習熟で成績基準を設け、成果が得られた。</p> <p>○家庭学習を習慣づけるために、スタディサプリを活用して1・2年生に生活アンケートを追加し、利用状況の改善に取り組んだ。</p> <p>○臨時休業中のオンライン授業実施のため、全職員がICTを活用した授業に取り組むことができた。</p> <p>▲少人数指導の学習効果をより高める授業実践とその効果の検証が必要である。また授業内容・形態については一層の研究が必要である。</p> <p>▲アクティブ・ラーニングについては、コロナ禍で制限され、今年度は研究があまり進まなかった。今後研究を重ね充実を図る。</p> <p>▲一人一台タブレットPCの効果的な利用方法の研究を全職員、全校体制で取り組む。</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
-------------------------------	--	-----------------------------------

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」をはじめ、すべての授業・行事において、今の学びがSDGsのどの目標と関りがあるかを教員、生徒が意識する。このESDの推進により、学ぶ意欲と学力の向上を図る。 また、大学入試改革及び学習指導要領の改訂に伴い、生徒の学力が幅広く、多様な進路意識を持つ生徒に対応するため、授業の在り方と教育課程の研究・検討を行いたい。 日々の授業において積み重ねを大切にし、予習・復習・宿題のサイクルの定着を図る。これには、家庭学習を習慣づけるためにスタディサプリを効果的に利用して、自宅学習の意欲を刺激する宿題の内容と量の工夫および小テストを含む宿題の点検等を行うことが大切である。 <p>例えば、予習（スタディサプリの授業動画など）→授業（主体的な協働学習中心）→復習（スタディサプリなどの演習課題）のサイクルを目指す。</p>
--

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月2日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用した授業がどんどん進んでゆくと良いと思う。今の世代の生徒には、黒板やホワイトボードより身近で集中できそうに思える。 コロナで限定された教育環境で十分に実践ができなかったのは残念だったが、来年に期待したい。 まじめで誠実であることは素晴らしい学校評価であると思う。小中では35人学級が始まるが、少人数教育の良さやICT機器を活用し、じっくりと個々に応じた学習を、これからも取り組んでいただきたい。 大変申し訳ないが、教員の個性に合うこと、合わないことがある。教員が他の教員の授業を参観するのもいいが、生徒が他の教員の授業を受けてみるのもいいのではないか。新たな学びの発見があるのかもしれない。 SDGsについて学ぶことが好きと言える指導を願う。 学習意欲が低く、基礎的な事項のみならず、考え、表現する力の定着が十分でない生徒への支援の手立てを明らかにしてもらいたい。池田中学校においても、生徒による授業評価を授業改善に活用するよう努めているが、対話的な学習への制約が大きく、十分に活かされていない。 アクティブ・ラーニングの取り組みは、今後の子供達の授業に対する大切なものであると思うので来年度以降も、力を入れた実践に期待する。
--